339
1018

始

339
1018

和歌山
和歌浦

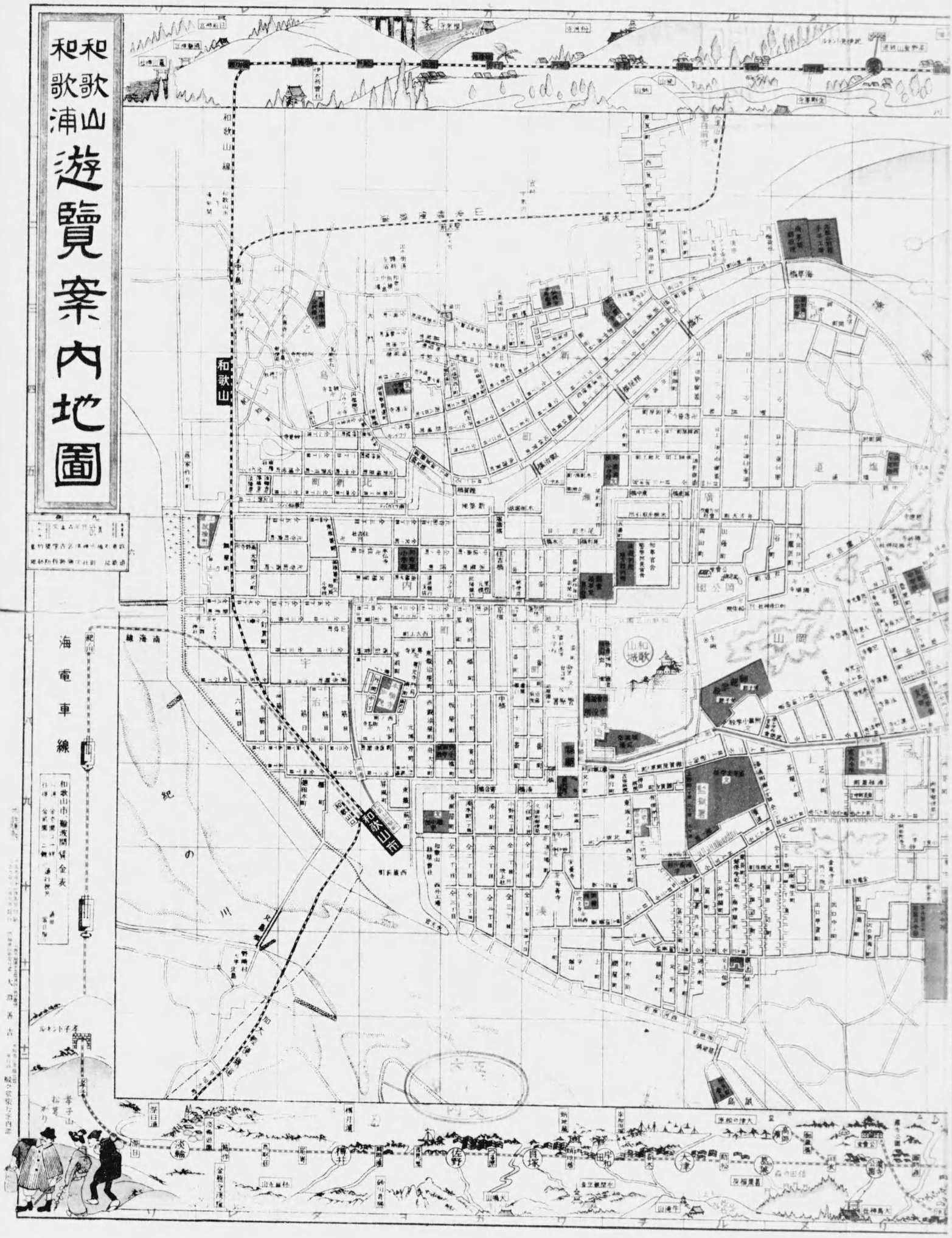
遊覽案內地圖

大淵善吉編

完

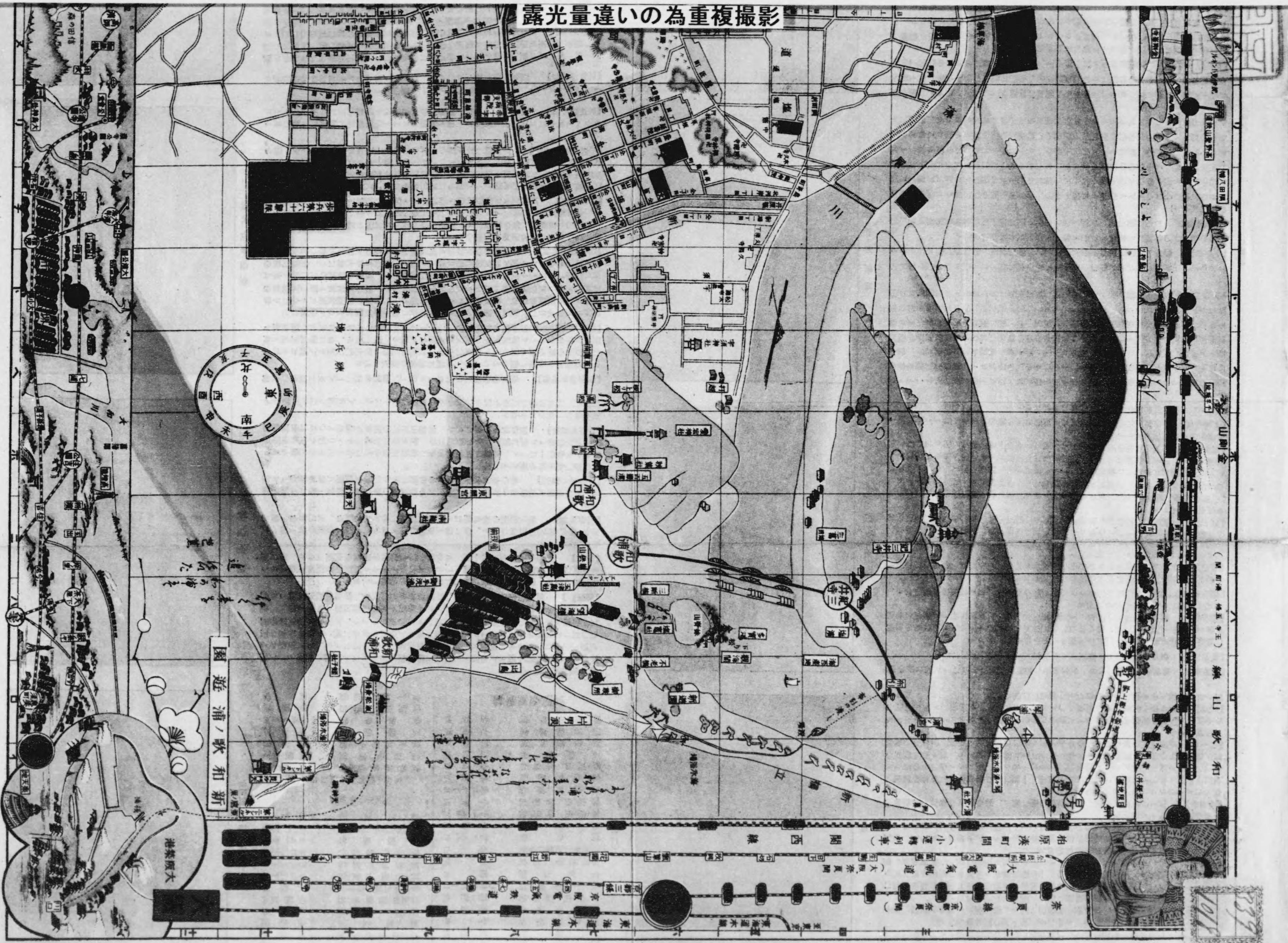
帝國書院

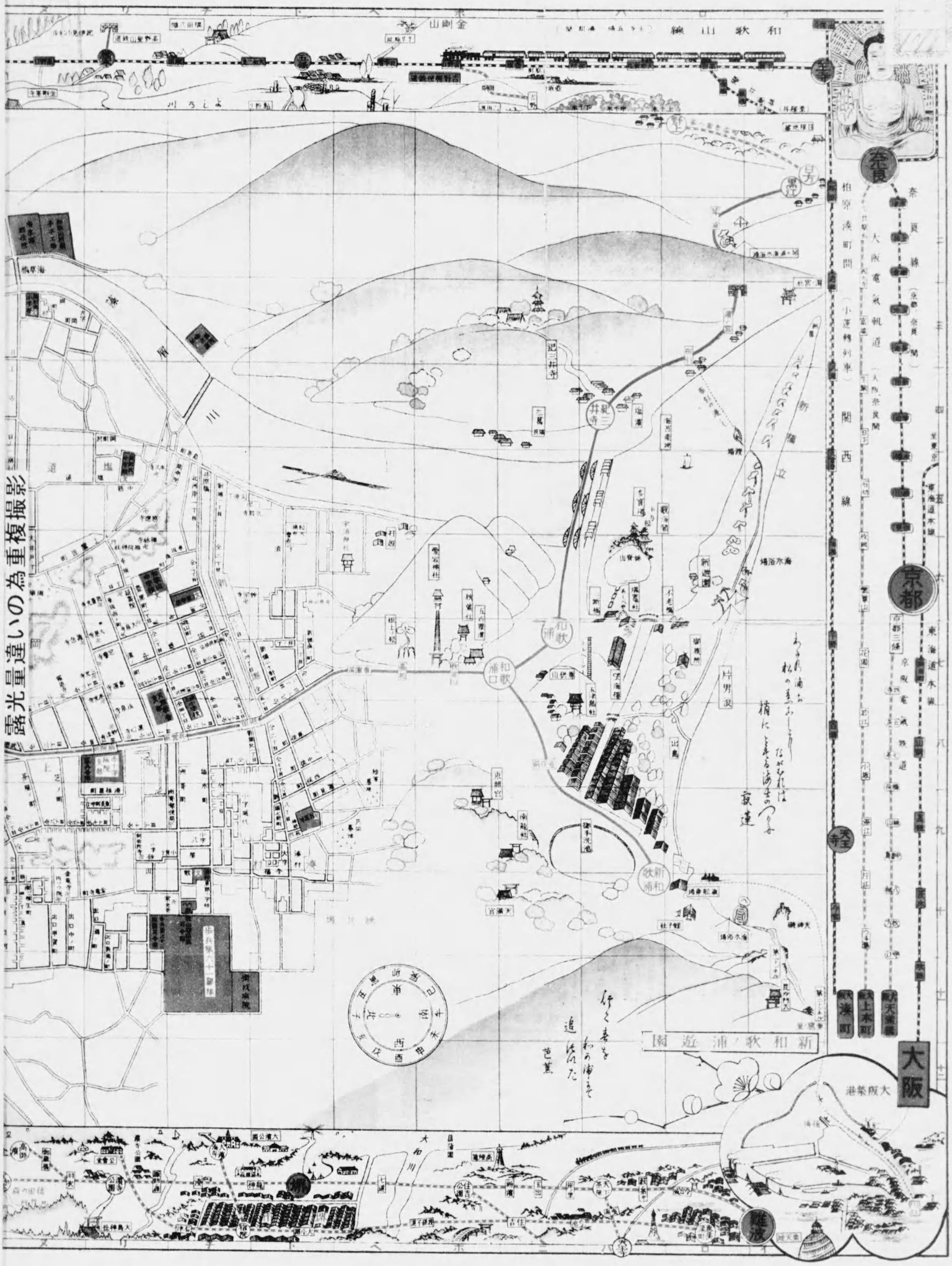
露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

露光量違いの為重複撮影




和歌山線
金剛山
川ろくよ
奈良
柏原湊町間（小運轉列車）関西線
大阪電気軌道（大阪奈良間）
奈良線（京都奈良間）
京都
東海道本線
天王寺
湊町
上本町
大阪電気軌道
大阪
大阪港築港
難波
和歌浦口
和歌浦
新和歌浦
紀三井寺
新和歌浦遊園
東照宮
南湖
宮瀬大
杜子鹿
場浴水海
新遊園
観海楼
出島
片男波
山賀神社
新地
東海道
新遊園
新和歌浦遊園
行く春を
和の浦にて
追ふた
芭蕉
あまの浦に
松の
なびかれは
潮にまかる海士の
哀蓮
露光量違いの為重複撮影

339-1018

和歌山市名勝誌

回編　概說

同位置と地勢　和歌山市は紀伊國の西北部に位して紀の川の河口に沿ひ、其廣袤東西約三十町、南北約一里に亘る縣内第一の都會にして紀の川の分流市内を貫流し以て水運に利す、又た市の中央に凸起せる丘陵あり、虎伏山と稱へて往時は和歌山城たりし處、虎伏山の南方には街路を隔てゝ一帶の砂丘あり岡山と稱へ、岡山の東方には巨巖を以て爲れる天紀山あり、市の南半は之れ等砂丘の爲め發達を稍阻害されし傾き無きにあらざるも年々商工業の發展と人口の繁殖に つれ漸次人家を加ふるに至れり

回沿革　往古、神武天皇御東征の御時、雄の水内に御上陸ありしことは史上に名高し、雄の水内は謂ち今の市の西邊にして當時は其附近一帶碧海なりしと云へり、爾來紀伊國の國造を置かれて其管下に屬せしが源平の時代より莊司の配する處となり、足利氏の代、畠山氏之れを采し、豐臣氏の時に至りて大和大納言秀長の老臣桑山重晴の領となりて初めて吹上の峰に城を築き、次いで慶長五年、淺野氏の所領となり、元和元年德川氏の天下を一統するに方り家康の子、紀宣封を享けて入國し代々相承いで明治維新の廢藩置縣に及べり。

回交通　國内の首都として陸路は諸方に通じ、水運は紀の川河口强ち良港と云ふべからざるも船舶常に碇繫し、又た大阪商船會社の所屬汽船及び其他の定期船寄港するあり、鐵路は南海線及び和歌山線の兩線通るありて一は電車を以て大阪市に、一は大和地方に至りて櫻井線及び關西本線に接續し、其他私線として山東輕便鐵道、加太輕便鐵道あり、亦た陸線和歌山市驛前を起点とせる和歌山水力電氣鐵道は市を南北に貫通し和歌浦を經て黑江、日方方面に向へり

回名産と名物　物産としては綿ネール、雪寶織、建具、漆器等名高く、名物としては奈良漬、紫蘇酒、びんつい油、小魚醉漬、小鯛雀すし、和歌海苔、駿河屋燒餅頭、和歌浦せんべ等著名なり。

市内ノ名蹟勝地

【神歌山市驛】　市の西北邊にあり、大阪市より來りたる南海線の終点にして亦た和歌山線の接續点たり、和歌山線は市の北邊を繞りて其東北方に和歌山驛を置き、紀の川の沿岸を東方に向ひて奈良路に入る、和歌山市驛に下車せば驛前に

【和歌山水力電氣鐵道】　の和歌山市驛前停留場あり、同電車は驛前を起点として東へ本町筋に出で更らに南に折れて市の中央部を貫通し、和歌浦、紀三井寺等を經て海草郡日方町に至る

【雪の瀑布坂】　雪寶町にあり（神驛山水力電車路下驛に雪瀑と云ふ）水町西丁目停留場一筋南の辻四丁目本願寺別院にて永祿六年、顯如上人の創建にかゝる處

【雪宝の宏壯なる市内第一とす、天正八年石山合戰の際、門徒等當寺に籠りて織田勢を潮覗せしことは當の森合戰の名と共に太閤記に記されたり

【新線神社】　當の森御坊の北方に近し、創營の年代詳かならざるも大已貴命を祭神とし、階近一帶の產土神とす

【高野寺】　元寺町北ノ丁にあり（電車本町四丁目停留場の北三丁なる本町七丁目の東二筋目）新義眞宗に屬し安置せる本尊は弘法大師自作の像にして、世に厄除大師と稱へ信仰するもの多く、毎年の初年には參者儒集して甚だ雜踏を極む、境内に三重の塔あり、其創建の年代詳かならざるも稀に見る古建築物なりと云ふ

【本町通】　電車本町四丁目停留場所在地より電車線路に沿ひ南へ四丁目、三丁目

和歌山城

（二）

二丁目、一丁目より又北へ五、六、七、八の各丁及び右折して九丁目あり、其内一二三の三丁には諸種の商店櫛比し繁華を極む

【ぶらくり丁】　本町一丁目と二丁目の中間より東に向へる街路にして之亦た諸種の商店軒を連ぬ其繁華なること市内第一とす

【新築地と元寺町】　ぶらくり丁の東端の地を新築地と云ひ、又た元寺町は新築地の西北方なる南北の通り筋にして之亦た繁華なる一區を爲し殊に活動寫眞館、劇場等あるより尤も一層殷賑の度を加ふ

【市場】　ぶらくり町の西方、本町通より西なる馬町、西の店の二町を蔬菜市場とし、其北の筋なる東鍛冶屋町を魚市場とす、毎朝近郊より集まりたる蔬菜近海より遙遠したる鮮魚を販賣する頗る賑はし

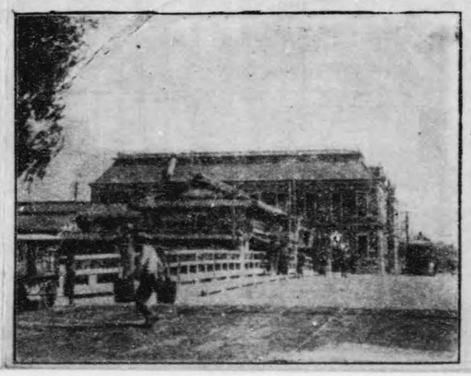
【京橋】　本町の南端に架せる橋にして市の黑穩元標所在地とす、電車は橋南に京橋停留場を置けり

【和歌山郵便局】　京橋停留場の東南角にあり

【丸の内花街】　郵便局の北横手の一區劃にして番町にあるを以て一に番町とも稱せり、明治六年、菊丸の内の堤防を開きて築てし處にして紀歌の要四時賑はし、此の他市の東邊に新地花街あり、新地をシンチと云はずアロチと云ふ、番郊は遊興を以て誇り新地は粹を以て誇るとか聞けるが如何にや

【水門吹上神社】　京橋南詰より西へ約四丁、小野町二丁目にあり、水門吹上神社は水門神社、吹上神社の併稱にして二社殿あり、水門神社には經子の神、吹上神社には大已貴命を配り俗に戎さんと唱ぜり、境内に雄詰（をたけび）の松あり、老幹特

（三）



和歌山京橋

（四）

ちて今は絲狸を見るべからざるも、神武天皇御東征の御時皇兄彦五瀨命、流宿に中りて雄詰びし給ひし雄水門の遺蹟にして彼へに菖蒲信樣淡の銅文を鑄せる碑石を蹲てたり、祭典は四季に執行さるゝ内にも毎年一月十日の十日戎には參詣者夥しく其雄踏大阪に於ける今宮の十日戎に讓らず、又た毎年十一月二十三日の火祭には舌餅と稱する約一坪の大餅を撒く例あり、當日は三丁町に居住する漁民崎集し其餅を互ひに奪ひ合はんとする樣頗る奇觀を極む、和歌山市驛へは當社より北方へ直路數丁に過ぎず

【多賀神社】　再び京橋に戻り、電車通りに沿ひ南に向へは東方多賀神社あり、江州の多賀明社を勸請する處にして信者夥しく社殿又た壯麗なり

【一の橋】　電車一の橋停留場の南方にありて城濠に架す、橋は其形狀大ならざる

紀の川

【市場】 上ると、其北の筋なる東殿治屋町を魚市場とす、毎朝近郊より荷を載せ来りて此に集まりたる蔬菜近海より出でたる鮮魚を販賣する頗る賑はし

（三）

【京橋】 本町の南端に架せる橋にして市の里程元標所在地とす、電車は橋南に京橋停留場を置けり

【和歌山師範】 京橋停留場の東南角にあり

【丸の内花街】 師範局の北横手の一區劃にして番町にあるを以て一に番町とも稱せり、明治六年、青丸の内の堤防を開きて建てし處にして紘歌の聖四時賑はし、此の他市の東邊に新地花街あり、新地をシンチと云はずアロチと云ふ、番町は漁獵を以て誇り新地は艶を以て誇るとか聞けるが如何にや

【水門吹上神社】 京橋南詰より西へ約四丁、小野町二丁目にあり、水門吹上神社は水門神社、吹上神社の併稱にして二社殿あり、水門神社には經子の神、吹上神社には大巳貴命を祀り俗に戎さんと稱せり、境内に蟬詰（なたけび）の松あり、老幹特ちて今は絲業を見るべからざるも、神武天皇御東征の御時皇兄彦五瀬命、流矢に中りて蟬詰びし給ひし雄水門の遺蹟にして彼へに碧潭倒梅溪の獨文を鐫せる碑石を建てたり、祭典は四季に執行さるゝ内にも毎年一月十日の十日戎には參詣者夥しく其雑踏大阪に於ける今宮の十日戎に讓らず、又た毎年十一月二十三日の火焚祭に牛の舌餅と稱する約一坪の大餅を撒く例あり、當日は三丁町に居住する漁民蝟集し其餅を互ひに奪ひ合はんとする樣頗る奇觀を極む、和歌山市驛へは當社より北方へ直路數丁に過ぎず

【多賀神社】 再び京橋に戻り、電車通りに沿ひ南に向へば東方多賀神社あり、江州の多賀神社を勸請する處にして信者夥しく社殿又た壮麗なり

【一の橋】 電車一の橋停留場の南方にありて城濠に架す、橋は其形狀大ならざるも當時和歌山城の大手たりし處にして今尚其橋の北に接したる通り筋を大手通りと云へり

【和歌山城址】 一の橋を渡り城門を潜れば既に城域にして仰視すれば鬱蒼たる樹間に三層の天主閣巍然として聳ゆるを見るべし、地を虎伏山、城を竹垣城と云ひ天正年間 羽柴秀長の老臣藤山重晴の創めて建造したる處、關來徳川氏の代に至り紀川頼宣封を享けて居城とし代々相承いで明治維新の廢藩に及びしが其間明暦年間、藩士某の誤に火を失して二の丸に延燒せしより間も無く再建せしが弘化二年、雷火の爲めに天守閣燒失し更らに再建せしもの現在の天守閣なりと、維新後は陸軍省の管轄に屬せしも近年に至り公園となし天守閣又た一般人士の登覽を許すことゝなりたり、和歌山図書館及び物産陳列場は城内にあり

（四）

【城濠の藤】 和歌山城の東北方を繞れる城濠に藤の蔓培せるもの夥しく花時頗る美觀を極め朝暮杖を曳くもの夥し

【岡公園】 和歌山城址の東南方紀山と云ふ、山上の眺望甚だよく、園の入口には宏壯なる洋商建の市公會堂あり、又た山の周圍には梅林あり櫻桃亦た夥しく、鹽泉あり、懸崖を映する處、尺餘の紅魚を躍潑潑として躍る、又た東面したる巖面には一山靜如大古、日長似小年一及び「山巷仁人遠、水清崖士風」二句を勒せり、前者は書聖大師が禮の稿にて井田南陽の書なり 岡公園の西南方、街路を隔てたる一隅にあり、古義眞言宗にして向陽の風光又た見るべし、和歌山師範學校は其西面にあり

【岡山】 天紀山の西和歌山城址の南に連亙せる砂丘にして松青く砂白くして丘上に稻荷式内の古社にして創田比古命を祀る

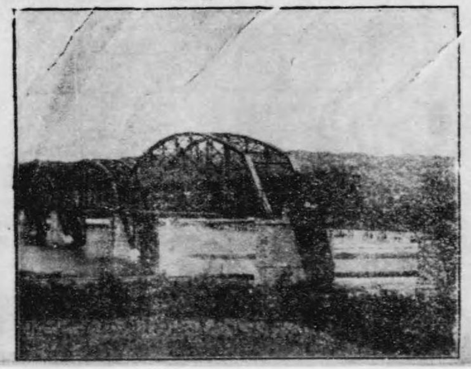
【創田比古神社】 一に岡の宮とも云ふ松生院の西南方に近き岡山の山麓にあり、

【禮明寺】 創田比古神社の南方一丁餘、寶匠町にあり、實洞宗にして桑山氏當國の領主として入國するに及び市外和田村より移して菩提寺と定め、且つ當時の和尚に禮明の金珠を贈りしより三五寺と稱せしを今の寺號に改むと

【禪林寺】 寶匠町の南端なる車瓜にあり、之又た實洞宗の巨刹たり

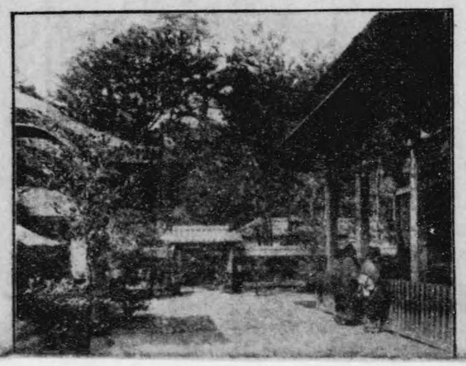
【泰恵寺】 禪林寺の南隣にあり、元和四年、藩祖徳川頼宣の命により當日陽の創

和歌浦全景



紀の川鐵橋

和歌山京橋



東照宮

（六）

臨したる日蓮宗の名刹にして寺背丘上に徳川氏の墳墓あり

【車瓜】 禪林寺の北方にある急瓜にして之れを上れば岡山の遠丘なり丘上に稻荷の小祠あり、世に車瓜の稻荷、また大智寺の稻荷とも稱へ奇瑞ありとして參詣するもの尠からず

【吹上】 車瓜を西に越ゆれば一帶の地を吹上と云ふ、此邊は往古碧海なりしが神武天皇御東征の砌時、陸地海中より吹き出してより吹上と稱すと、然も爾來陸地の次第に山形を爲すに至りしより弱山（わかやま）と名くるに至りしもの何日の程より か弱な和歌と吹むるに至りしものなりと云ふ、一說に或は弱山の名は現在の岡山を指したるものならんかと云へるが如何にや

【護念寺】 吹上の寺町にあり、淨土宗西山派に屬し、藩祖頼宣の命により當春大和尚の開基にかゝる處とす

【報恩寺】 護念寺の西方なる辻を北に向ふこと一丁餘なる眞砂町二丁目にあり、日蓮宗にして徳川光貞、母君遠祖の爲め當日廟を開山として創建せし處とす、寺域甚だ廣く、背後の岡山には徳川家の墓塋あり

【蓮心寺】 護念寺の西、寺町の西端にあり、之又た日蓮宗に屬し、藩祖頼宣、當日蓮に命じて創建せしめし處なりと云ふ、一の橋停留場より城址の北邊なる西に向ひたる電車に乗じて城址の西を繞りて蓮心寺の西方たる街路を南に走り和歌浦方面に向ふ、即ち蓮心寺の横手より電車線路に沿ひて北すれば約一丁にあり、

【赤十字支部病院】 一の橋停留場を發く、尚も北して武德會支部、赤十字社支部、師範學校附屬小學校等を右手に見て軒を連ねる芝生停留場に達す

【富の芝】 は今や市の發展に伴ひ、人家疎らで昔日の面影を見るべからずとするも、其地形屬面形を爲し、寄海時代には藩士に射術練習の爲めに設けられし騎射場の形等あり、當形は京都の三十三間堂を模して高遠なるものなりしと、屬の芝より

【和歌の浦】　和歌の浦は和歌山市元標より南方一里餘にあり、日本三景に西げる勝地として古來名高し、和歌山市よりは和歌山水力電氣軌道によるべし、即ち同電車は市街を南に離れて高松停留場に至れば附近に

【根上り松】　あり、老松の樹根高く地上に露出して其だ奇異な感するを見るべし

【雷神社】　雷神は敷株ありて鶴の松、亀の松、相引の松等其形狀によりて名付けられしと云ふ

今は只だ一株を存するのみ

【愛宕權現】　高松停留場附近より續ける松並街道の中央部より東方一丁なる山麓にあり、圓球院と稱し、寛永年間山城觀山不動院の僧顯榮の成創にかゝり阿太子權現を祀り、火伏の神として衆者常に多く、紅葉の名所として知らるる

【彌勒寺山】　愛宕山の南にありて俗に御坊山と稱せり、普時は此の山上に彌勒寺と號する一宇あり、天正年間織田勢の雑賀攻めの時、鈴木孫市此地に本陣を設けて防戦に勞めし處とす

【硯石】　彌勒寺山の西麓なる和歌浦街道にある巨巖にして其形狀硯の狀ゆるに似たるを以て此名を附せり、巖上に滯留李梅溪の筆を以て其名を誌せり

【秋葉大權現】　彌勒寺山の南方なる山上に鎮座、電車は秋葉停留場に下車せば參詣の石燈は東方に近し、其創建は寛政五年にして古來火難除けに靈驗現著なりとて路の石燈は東方に近し、其創建は寛政五年にして古來火難除けに靈驗現著なりとて其だ多し

【鹽竈遊園】　電車秋葉停留場の左側にあり、前に述べたる硯石と同く巨巖の形狀亀の遊へるが如きなるより此の名あり、之又巖上に李梅溪の筆になる題字を刻せり

【矢の宮】　秋葉停留場の西方約二丁餘、關戸村にあり、祭神は武角身命にして同社より信者に授與する反鼻除（ひよけ）の守護札は蚤虫除に靈驗現著なりと云ふ、

【又百觀渓寺】　秋葉權現の南麓にあり、曹洞宗にして佛殿には釋迦牟尼佛の大佛を安置し其の左右より後方を繞りて五百羅漢像を羅列せり、電車は秋葉停留場を發し五百羅渓前を過ぎて和歌浦日停留場に至り左右に分岐せり、右手に向へば東照權現、新和歌浦に至り、左方に進れば和歌浦停留場を經て紀三井寺方面に向ふ、遊覽者は先づ右路をとりて新和歌浦の勝を探り次いで海濱に沿ひ南方より巡りて和歌浦停留場に至りて紀三井寺に足を進むが宜しかるべし

【東照宮】、新和歌浦行の電車によりて權現前日下車せば右方の山下にあり、元和六年源朝臣宣の創營にかゝり德川家康の神靈を祀り東照大權現と號す、寶路の石道丹塗の神橋、翁百級の石階、壯麗なる社殿は林檎の補筆に相映して神殿幽邃の氣を發えしむ、毎年五月十七日に擧行する祭典は世に和歌祭りと稱へ其壯觀なること近國に類なく日本三大祭の一なりと稱す

【前鼻社】　東照宮の山麓にあり薄鼠親宣の鎧を祀る、社殿壯麗にして境内に梅櫻多く毎年春秋の二期に盛大なる祭典を行ふ

【天滿宮】　東照宮の西方なる山麓にありて菅公を祀る、延喜年間、菅公大宰府に左遷の途次海上風波の難を此の浦に避けて上陸せられしが其後廣保年間權直幹此地に來りて社殿を創營し、其後天正の兵燹に烏有に歸せしを慶長十一年、淺野氏再建せしは現在の社殿なりと

【新和歌の浦】　和歌浦灣の西端にあり、後に單獨を買ひ前面和歌浦灣を隔てゝ遙かに紀淡海峡に對し風光甚だ可なり

【片男波】　「和歌の浦に潮みちくれば片男波、あしべをさして田鶴なきわたる」の古歌によつて知られし島、地は和歌浦灣の東方を携して風光頗る見るべく、夏時の海水浴に又甚だよし

【不老橋】　不老橋の北方なる山脚の窪内にありて「和歌の浦には名所がござる」は水上に圓形を爲せるより俗に大鼓橋とも云ふ

【鹽竈神社】　片男波より北方に進み來れば遥かに相對する名草山の山麓にあり、元和一に權現二に玉津嶋、三に下り松四に鹽竈よ」の傳說に據はる島、尤も但舊には鹽竈と稱し或は又た鹽洲と稱するも、鹽波なれば和歌浦より紀三井寺に至る途次の鹽竈と云ひ伴かならず、其昔後に鎮座せしなれば和歌浦より紀三井寺に至る途次の鹽竈と云ひ伴かならず、其昔後に鎮座せしなれば和歌浦より紀三井寺に足を進むが宜しかるべし

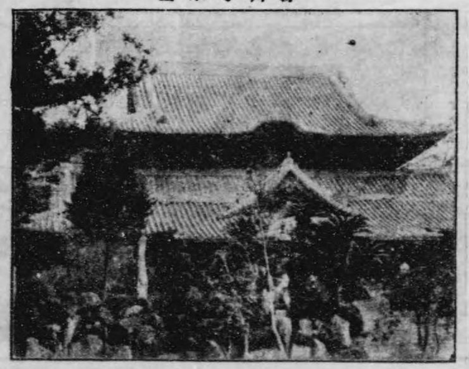
【玉津嶋神社】　玉津嶋神社の西北方にあり、祭神は衣通姫なりと云ひ伴功皇后なりと云ひ伴かならず、其昔後に鎮座せしなれば和歌浦より紀三井寺に至る途次の鹽竈と云ひ伴かならず、其昔後に鎮座せしなれば和歌浦より紀三井寺に足を進むが宜しかるべし

【不老橋の地】　あり、之れ豪武、稱德の兩帝臨幸ありし處にして、今は山下よりエレベーター通じて登臨に便にす、山上眺望頗るよく所謂海濱の遊田は一望に見るべし

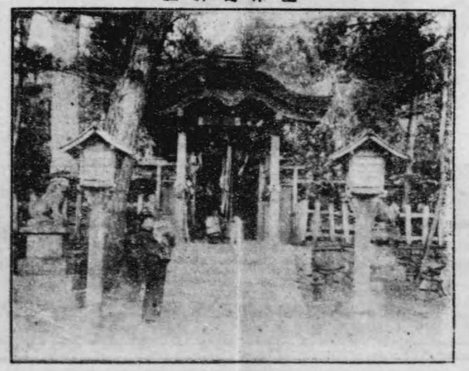
【紀三井寺】　三所權は不老橋の東北方にあり、三圓の石階相連りて一絲なる山麓にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松は丘上より遥路に枝を延べ山の東方に位置せり、鐘なる波は妹背山にして下り松

片男波砂濱

紀三井寺全景



粉川寺本堂



玉津島神社

旅館海觀山脊

今は只だ一株の存するのみ

【愛宕櫓現】　高松停留場附近より樓げる松並街道の中央部より東方一丁なる山麓にあり、圓球院と稱し、寛永年間山城叡山不動院の僧顯榮の創にかゝり同大子權現を祀り、火伏の神として衆者常に多く、紅葉の名所として知らる

【彌勒寺山】　愛宕山の南にありて俗に御坊山と稱せり、昔時は此の山上に彌勒寺と號する一寺あり、天正年間織田勢の雑賀攻めの時、鈴木孫市此地に本陣を設けて防戦に努めし處とす

【祝石】　彌勒寺山の西麓なる和歌浦街道にある巨岩にして其形狀鯛の映ゆるに似たるを以て此名を附すと、巖上に藤僊李梅溪の筆なる刻字を刻せり

【秋葉大權現】　彌勒寺山の南方なる山上に鎮座、電車は秋葉停留場に下車せば參詣路の石磴は東方に近し、其創建は寛政五年にして古來大祭日には盛大なる祭典を行ふ、參詣者は多し

【亀遊廟】　電車秋葉停留場の左側にあり、前に述べたる祝口石と同く巨巖の形狀亀の遊べるが如きあり、之又巖上に李梅溪の筆になる題字を刻せり

【矢の宮】　秋葉停留場の四方約二丁餘、鶴戸村にあり、祭神は武角身命にして同社より信者に授與する反魂除（はびけい）の守護札は毒虫除に靈驗現著なりと云ふ、又た同村に釣岩あり

【五百羅漢寺】　秋葉權現の南麓にあり、曹洞宗にして佛殿には釋迦牟尼佛の大佛を安置し其の左右より後方を繞りて五百羅漢像を羅列せり、電車は秋葉停留場を發し五百羅漢前を過ぎて道り左右に分岐せり、右手に向へば東照權現、新和歌浦に至り、左方に辿れば和歌浦停留場を經て紀三井寺方面に向ふ、遊覽者は先づ右路をとりて新和歌浦の勝を探り次いで海濱に沿ひ南方より巡りて和歌浦停留場に至りて紀三井寺に足を進むるが宜しかるべし

【東照宮】、新和歌浦行の電車によりて權現前下車せば右方の山下にあり、元和六年藩祖頼宣の創營にかゝり德川家康の神靈を祀り東照大權現と號す、參詣の石道は電柱に沿ひ、幾百級の石階、壯麗なる社殿は林樹の精華に相映じて神韻幽靈の氣を發ぜしむ、毎年五月十七日に擧行する祭典は世に和歌祭りと稱へ其壯觀なること近畿に類なく日本三大祭の一なりと稱す

【南宮社】　東照宮の山麓にあり藩祖頼宣の靈を祀る、社殿壯麗にして境内に梅櫻多く毎年春秋の二期に盛大なる祭典を行ふ

【玉津島宮】　東照宮の西方なる山麓にありて菅公を祀る、延喜年間、菅公大宰府に左遷の途次海上風波の難に遭ひて上陸せられしが其体廣保年間機直幹此地に來りて社殿を創營し、其後天正の兵燹に烏有に歸せしを慶長十一年、浅野氏再建せしは現在の社殿なりと

【新和歌の浦】　和歌浦灣の西端にあり、後に聚勝を眞び前面和歌浦灣を隔てゝ遙かに雄峰を眺に對し風光甚だ可なり

【片男波】　「和歌の浦に汐みちくれば片男波、あしべをさして田鶴なきわたる」の古歌によつて知られし處、地は和歌浦灣の東方を挑て風光明媚を見るべく、夏時の海水浴に又甚だよし

【不老橋】　片男波より北方に道を求めて進めば石橋あり、之れ不老橋にして橋脚は不老橋の北方なる山麓の窟内にありて「和歌の浦には名所がこさる」の俚諺に謳はる處、尤も俚諺には玉津島と稱するも、猶演なれば和歌浦より紀三井寺に至る途次の望遠に橋現二に玉津嶋、三に下り松四に望遠より」の俚諺に謳はる處、尤も俚諺には望田なるべきか

【玉津嶋神社】　望遠神社の西北方にあり、祭神は衣通姫なりと云ひ神功皇后なりと云ひ詳かならず、其實後に其後山あり、一に鹿山とも云ひ山上に

【玉津島の地】　あり、之れ聚武、稱德の兩帝臨幸ありし處にして、今は山下より エレベーター通じて登臨に便にす、山上眺望頗る よく所謂海濱の繪田は一望に見るべし

【三斷橋】　三斷橋は不老橋の東北方にあり、三斷の石橋相連りて一橋を爲す、之れ或所四潮の六橋 擬せしものなりとか、橋を渡らば妹背山にして下り松は丘上より運路に枝を垂れ山の東方には鶴海樹及び多寶塔あり、塔は慶安二年に建てし處、樓には紀三井寺に對し其風光云ふべからず

【紀三井寺】　和歌浦より落居川の下流を隔てゝ遙かに相對する名草山の山麓にあり、古義眞言宗の名刹にして爲光上人一刀三禮の作になる十一面觀世音を本尊として西國三十三所第二番の靈場たり、電車は和歌浦より長橋を渡りて此の山下に停留

【日前國懸神社】　和歌山市の東郊なる秋月村にあり京橋元標より約一里、和歌山驛より起点とせる山東輕便鐵道秋月驛より近し、社は官幣大社にして往古は濱の宮に鎮座したりしも崇仁天皇の御宇今の地に遷座す、社殿は東西の二ありて東は國造りと入鹿鎮魂の内、創めて成れる一面なり納むと、神官は紀國造家代々承はり毎年四月及び九月に卦霊なる祭典を行ふ、神域甚だ廣く老樹蔚蒼として森嚴たり

【電山神社】　日前國懸神社の南方約二十丁なる和田村にあり山東輕便鐵道遥ず社は官幣中社にして神武天皇の鳥見産天羅命を祀る、傳へ云ふ、命は神武天皇と共に御東征の軍を進め給ひしが流矢に中りて薨詰ひし給ひ男水門に至りて薨ぜられしかば其御遺骸を此地に葬めまつると、御陵は社殿の東方にあり

【伊太祈曽神社】　山東輕便鐵道の路点より近し、國幣中社にして五十鈴命、大鼠

津姫命、孤津姫命の三神を祀る、共に婆婆塚等の御子に在りて我國に樹木の種子を播き給ひし神なりと申す

【視取繰持寺】　野崎村字視取にあり、和歌山市郊の附近を起点とせる加太輕便鐵道より約一里、寺は新義眞言宗の總本山にして永治元年興教大師創建にかゝる處、昔は堂塔伽藍殿棟を連ね彼の高野山と並び稱せられし程なりしも、天正年間寺僧等豐臣氏に抗して反旗を翻へせしより遂に兵燹に罹りて殆んど烏有に歸し、當來再建の工を起して今日に至るも、猶も其遺構物に今尚見るべきもの尠からず、又た安置せる不動尊は世に鎌倉不動と稱して名高く、境内に櫻樹頗る夥しきより觀櫻の名所として花時の遊客甚だ夥し。

【槇尾寺】　和歌山市の北方約四里、那賀郡槇尾村にあり、和歌山線岩出驛より北方約一里、寺は新義眞言宗の總本山にして永治元年興教大師創建にかゝる處、昔は堂塔伽藍殿棟を連ね彼の高野山と並び稱せられし程なりしも、天正年間寺僧等豐臣氏に抗して反旗を翻へせしより遂に兵燹に罹りて殆んど烏有に歸し、當來再建の工を起して今日に至るも、猶も其遺構物に今尚見るべきもの尠からず、又た安置せる不動尊は世に鎌倉不動と稱して名高く、境内に櫻樹頗る夥しきより觀櫻の名所として花時の遊客甚だ夥し。

【木の本八幡宮】　木の本村大字木の本の山麓にあり、加太輕便鐵八幡停留場より近し、地は應神天皇顯宮の舊址にして社内に小野道風の筆なる八幡宮と書せる額を藏せり

【淡嶋神社】　加太輕便鐵の路点地なる加太の海濱にあり、月讀命、大巳貴命、氣足命命（神功皇后）の三神を祀り、世に海上鎮護の神と云ひ又た峰人安產の神と稱へて

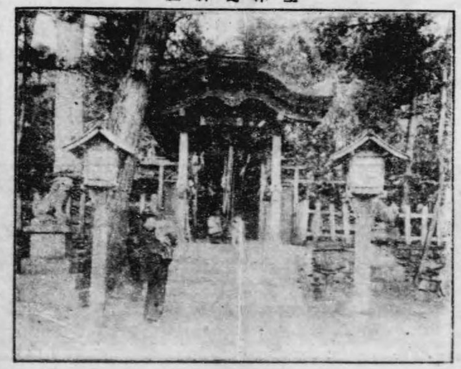
【婆娑嶋】　和歌山市の北方約一里、有功村（いさほ）大字圖部の山麓にあり、地は頗る幽閑にして奇岩怪石の間に飛瀑がしり其丈大ならざるも輕妙の音溪谷に傳ふるより其名を爲す、附近に楓樹鬱しければ秋時觀楓の客悲しく來遊す

官衙公區學校

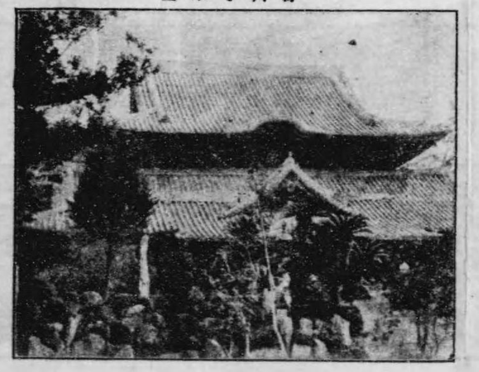
和歌山縣廳　北汀町
鹽會議事堂　六番町
地方裁判所　二番町
區裁判所　三番町
和歌山市役所　七番町
商業會議所　七番町
工業試驗場　本町九丁目
和歌山警察署　十番町
和歌山郵便局　十一番町
稅務署　十一番町
測候所　十番町
歩兵第二師團司令部　三番町
歩兵六十一聯隊　七番町
防戦病院　湊
小松原通四丁目
赤十字病院　三井銀行支店
和歌山市圖書館　木町二丁目
物産陳列場　三番町
海草郡役所　木町二丁目
公會堂　三番町
監獄署　木町二丁目
上野町一丁目　木町二丁目
岡山　岡山縣
男子師範學校　豐原町
女子師範學校　東坂ノ上町
和歌山中學校　東寺町
商業學校　七番町
工業學校　湊通り丁
二番町　大手通
高等小學校　
男子高等小學校　
女子高等學校　
實科高等女學校　
其他小學校は各所にあり

◎郵行及會社

農工銀行　北汀丁
四十三銀行　十一番丁
倉庫銀行　十二番町
紀陽貯蓄銀行　木町二丁目
濱速銀行支店　木町二丁目
三井銀行支店　木町二丁目
米穀株式會社系取引所　三番町
和歌山紡績會社　三番町
同中ノ嶋工場　畑屋敷
鹽紡支店　畑屋敷
和歌山水力電氣　岡山町
和歌山瓦斯會社　中ノ嶋
以上は著名なるものにとどむ



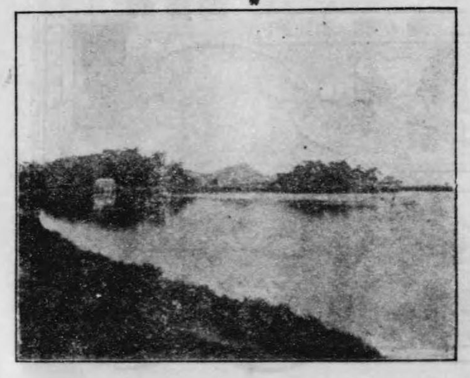
玉津島神社



粉川寺本堂

紀三井寺全景

片男波砂濱



片男波より望む山を望む

終